

帝京長岡センバツへ



日本文理との決勝を制し、喜び帝京長岡の選手たち
19日、富山市民球場

秋季初V接戦制す

初の県勢決勝 日本文理も有力

北信越高校野球

帝京長岡
日本文理

0	0	0	0	1	0	1	3	0	5
2	0	0	0	0	0	0	2	0	4

第153回北信越高校野球大会は19日、富山市の富山市民球場で決勝を行い、本県3位の帝京長岡が1位の日本文理を5-4で破り、2024年春以来2回目の優勝を飾った。秋季大会の優勝は初めて。帝京長岡は来春の選抜高校野球大会（兵庫県・甲子園球場）への初出場を確実にし、準優勝の日本文理も有力。21世紀枠による選出を除いて初めてとなる県勢2校のセンバツ出場に期待が高まる。

初の県勢同士による決勝となり、帝京長岡は2-2の八回、富田惇紀選手あつりの適時三塁打などで3点を勝ち越した。日本文理の投手陣に13安打を浴びせて打ち勝った。

日本文理は初回、無死満塁から犠牲フライなどで2点を先制。八回にもスクイズなどで2点を加えた。だが、自慢の打線が3安打と振るわなかった。

選抜高校野球大会は来年3月19日に開幕。一般選考による北信越地区の2校を含む32の出場校を決める選考委員会は1月30日に開催される。